

令和6年度 授業改善推進プラン 国語科

	観点別		
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1年	・朝読書や図書の時間を活用し、語彙力を育てるようにする。 ・読み聞かせなどを通じて言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付かせる。 ・しりとりなどの言葉遊びを通じて語彙を広げる。 ・タブレット学習で「MIM」を活用して、拗音・促音・長音・撥音や助詞に気を付けて読んだり書いたりすることができるようにする。 ・行事や学校生活の振り返りを行い、作文の機会を増やす。	・基本的な話し方、聞き方を身に付けさせる。 ・身近なことから話題を決め、朝の会にスピーチタイムを設けて重点的に取り組ませる。 ・「かくってたのしいね」を活用し、文を書くときのきまりや約束事を身に付けさせる。 ・順序に気を付けて文を書くようにさせる。 ・日常的に書く活動の時間を確保し、表現力をつけるようにする。 ・話のまとまりや言葉の響きに気を付けて、音読ができるようにする。 ・音読や場面を動作化をすることで、場面を具体的に想像し、登場人物の心情を考えさせるようにする。 ・段落があることを知り、順序や事柄に気を付けて内容をつかませるようにする。 ・時間的な順序を意識して文を読めるようにする。	・国語に関心をもって楽しく読んだり書いたりすることのできる教材を工夫する。 ・物語に親しみ、音読や劇遊びを楽しめるようにする。 ・自分の思いや観察したことなどを書くことに意欲をもたせるようにする。 ・学習している単元に応じて並行読書ができるよう、類似作品や、同じ作者の作品などを提示する。 ・司書教諭、保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる読み聞かせを通して読書活動に興味をもたせるようにする。 ・タブレットPCを活用し、互いの考えを交流し合い、学習意欲を高める。
2年	・漢字や簡単な熟語や主語・述語などの文法的な知識などを身に付けさせる。またそれらを使って簡単な文を作る。 ・文の中で漢字を使うことが出来るよう、家庭学習などで物語文の視写を課題に出す。 ・多層指導モデル「MIM」を活用して、拗音・促音・長音・撥音や助詞に気を付けて読んだり書いたりすることができるようにする。 ・1時間の授業の中で、書く・話す・聞く・読むを計画的に取り組ませて4領域の力を付けさせる。	・身近なことや経験したことなどから話題を取り上げ、それらの説明や経験を報告できる場を設定し、話したり聞いたりできるようにする。 ・簡単な構成を考えて物語や詩を作ったり、日記、作文、記録文などの書く活動に取り組んだりすることで、事柄の順序に沿って文を書くことができるようにする。 ・叙述をもとに自分の考えを表現する活動を、繰り返し行い、根拠をもって自分で考える力を伸長する。 ・音読や動作化で場面の様子や登場人物の気持ちを読み取らせる。また、言葉遊び歌を中心とした音読用の詩集を作り、家庭学習にして音読を日常のものにする。	・保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる読み聞かせを通して読書活動に興味をもたせるようにする。 ・学習している単元に応じて並行読書ができるよう、同じ動物が登場する作品や、同じ作者の作品などを提示する。
3年	・漢字のミニテストやまとめのテストを繰り返し行い、3年生で学習する漢字を定着させる。 ・国語辞典を積極的に活用させる。 ・漢字のへん、つくりなどの構成について知識の定着を図る。 ・ローマ字を読んだり書いたり、PC入力したりする活動を、年間を通して計画的にすすめる。また、キーボード入力が定着するように、タブレットPCを日常的に活用する。	・物語や説明文などでは、叙述を基に登場人物の思いや様子、段落相互の関係を考える活動をさせる。 ・ペア・グループで交流する活動を設定し、友達との考えの違いに気付くようにする。 ・主題や要旨・話の中心は何かを考えながら文章を読ませる。 ・段落や、話のまとまりに気をつけながら文章を書かせる。 ・作文、感想文など書く活動については、「書くって楽しいね」を活用し、充実させることで書く力を高める。 ・相手を意識して話をさせる。 ・日常の学習の中では、ノートに自分の考えを書いたり、ペア・グループで話し合ってから発表したりさせる。 ・聞き手は、話し手が何を話そうとしているかを考えながら聞くようにする。	・保護者ボランティア、図書委員会、担任などによる読み聞かせを通して読書活動に興味をもたせるようにする。 ・言葉遊びを通じて語彙を広げ、言葉の面白さを感じられるようにする。 ・物語の登場人物の気持ちや変化について友達と考えを伝え合うことで、意欲が高まるようにする。 ・音読カードに音読のメリットを明記し、目的意識をもたせながら学習できるようにする。 ・タブレットPC「まなびポケット」を有効活用し、自分の考えと友達の考えが相互に閲覧できるようにすることにより、学習意欲を高めていく。
4年	・漢字や言語については繰り返し学習した後、確認テストを行う。必要に応じてさらに反復練習をさせる。 ・国語辞典、漢字辞典を日常的に使わせることで言葉に対する関心を高め、語彙や知識の拡充を図る。また、日常的に活用を促す。 ・毎月課題を変えて暗唱文に取り組みせ、様々な言葉に触れる機会をもつ。	・目的意識をもち、集めた資料を比較したり分類したりして、伝えるために必要な事柄を選んで話せるように指導を工夫する。 ・学級全体で話し合う活動をすることで、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ話し合えるようにする。 ・必要な事柄を記録しながら聞かせることで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえられるようにする。 ・作文、感想文など書く活動については、段落構成を考えてから書き始めたり、組み立て方を学んだりすることで書く力を高める。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書かせる。 ・物語や説明文などの「読み」の学習では、課題を明確にし、何について課題解決を図るのかをはっきりさせて読み取らせるようにする。 ・教科書の本文にサイドラインを引かせることで、叙述を基に登場人物の心情や様子を読み取る。 ・読み取ったことをノートやワークシートに書き、それを小集団で交流することを通して自己の読みを深める。	・みんなで積極的に意見を言い合える雰囲気をつくる。 ・読書に親しむため、朝読書の充実やPTAとの協力で読み聞かせをしたり、図書委員会の読書週間の取り組みと連携したりするなど、多面的な活動をする。 ・音読カードに音読のメリットを表記し、目的意識をもたせながら学習できるようにする。 ・物語文や説明文を読んだあとには、指定された長さで感想や自分の考えを書くようにする。自分の意見を書く習慣を付けるようにする。

5年	・新出漢字の指導を計画的に行う。なぞり書き→写し書きをしてステップを踏んでいく。また、その漢字を使った熟語や短文作りを行い、活用できるようにし、小テストなどを通して理解と定着を図る。 ・下学年までに学習した漢字については、定期的に宿題を出したり、ノート指導など日常の中で漢字を使うように指導していき定着をはかる。 ・国語辞典を日常的に使うようにし、語彙の拡充を図る。	・聞く際には、話の意図や伝えたいことを考えながら聞けるように、振り返りの時間を確保して話の大筋や要点を捉えられるよう指導の工夫を図る。授業中に発言する機会を増やしたり、スピーチ活動をししたり、話す・聞く活動の日常化を図る。 ・物語の中心人物の心情の変化や情景描写、説明文の問題・筆者の主張に線を引き、大事なことをおさえる。読み取ったことを短文でまとめる、要旨を捉えるなどの活動を行い、それらを小集団で交流する中で、読み取る力のさらなる向上を図る。	・定期的に図書室を利用したり、図書館司書と連携して本の紹介をしたりして、すすんで読書する環境をつくる。 ・意見文や提案文を書いた後、友達の作品を読み合う場面を設定し、互いの考えに触れさせる場面を多くもたせる。 ・言葉の持つ良さを認識できるように、リズムがある詩を読んだり、季節を表す言葉を集めたり、古文に触れたりする機会を積極的にもつようにする。 ・国語科だけでなく、各教科でまとめや感想を書き、書くことの日常化を図る。書くときには、例文を提示し、構成のコツをつかみやすくし、書くことへの抵抗感をなくすようにする。
6年	・新出漢字の指導を授業時間内に組み込んで、全員が確実に取り組めるようにする。また、小テストや漢字50問テストの練習をする時間を授業中に確保したり、宿題に出したりしながら、漢字の習熟とともに語彙の習得を促す。 ・下学年までに学習した漢字や語句についても、作文や短文作りの中で適切に使えるようにする。その為に、低学年や中学年で例示されている作文を児童に見せ、平仮名で書かれている言葉を既習漢字に直す指導を月に1度程度入れていく。 ・語彙獲得を図るために、作文を書く際は、国語の教科書に載っている「言葉の宝箱」を見ながら書くように児童に指導する。	・話の意図を考えながら聞いたり、伝えたいことを明らかにして話したりすることができるよう、物語文の感想や説明文の感想をノートに記入し、児童相互で発表する時間を設定する。 ・文章構成の把握(主語・述語・修飾語)という、すべての領域の言語活動の根本になる力に課題が見られるので、作文や意見文を書いた際は、児童同士で作文を見合い、推敲させ、主語・述語の有無や修飾語が適切に使われているか確認する時間を設定する。 ・記述式の問題に無回答の児童が多いという課題がある。作文を行わせる際に字数と時間を設定し、決められた時間内に作文ができる能力を身に付けさせる。 ・物語において、登場人物の心情について、描写を基に捉える力に課題が見られるので、心情に迫る言葉に注目させるような学習展開の工夫を行う。	・指定された長さで文章を書く問題に無回答の児童が多い。行事活動が終わったときや学期の終わりの振り返りで作文を書かせ、詳しく長く書かせるようにする。 ・意見文や作文を書かせた際に、グループで推敲させる。また、他者の文章を読み、良いと思ったところや真似したいところを書く時間を確保する。